

IV 外部評価委員の意見（総評）

島田市教育委員会の事務は、義務教育の小学校、中学校の学校教育を中心に、幼稚園（私立幼稚園の支援を含む）、図書館・博物館の運営、スポーツ・文化活動など多岐にわたっている。

今回、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会に関する事務の点検・評価として、各所属長から自己評価についての説明を受けたので、外部評価として課題について記述する。

全体として言えることは、教育委員会全体は、もっと世の中の動きを理解していただきたい。時代はめまぐるしく変化し、パラダイムシフトが起きているのである。時代の変化は、教育には関係ないと考える方もいる様に思われるが、世の中の動きをしっかりと見つめた上で、今の教育に如何に反映させるべきか、これから世界に羽ばたく日本の若者が力強く生きて世界に貢献できるためには、何が大事かを感じていただきたい。問題が起きてから解決するのではなく、問題を探しにいくような姿勢で、日々、業務改善に努めていただきたい。

※ パラダイムシフト：その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが革命的にもしくは劇的に変化すること。

1 教育委員会

教育委員の活動については、定例の会議のほか、幼稚園・小中学校等への訪問や他団体との懇談会を開催するなど積極的な活動が評価できる。ただし、その成果が見えにくい。教育現場で困っていることなどの問題点を解決できるように、フィードバックしていただきたい。

2 教育総務課

国の経済危機対策事業の中で、長年の懸案であった教員1人1台のパソコンが配備された。こうした情報処理については、各学校での管理が難しいので、専門業者による保守はもちろんのこと、パソコンという道具が教員にとっての業務の効率化なるように、その運用に気をつけるとともに、パソコンに不得手な教員に対するアフターケアも重要である。

校舎の老朽化の対策としては、児童生徒の安全対策など緊急を要するもののほかは、中長期的な計画のもと、優先順位をつけて進めることが必要である。特に、昭和50年代に建設した市内のオープンスクールについては、今後、多くの学校で建て替えの時期を迎えるので、建設基金を積み立てるなどの準備を進めるべきである。

私立幼稚園運営支援では、時代の変化に対応し、幼保一元化の取組みを検討すべきであるが、地域の意見を良く聞くことも重要である。

3 学校教育課

学校教育課とこども発達支援センター「ふわり」との連携し、トータルで見守る体制を確立されたい。

教員に対するパソコン配備が終わり、本格的な運用が始まる。情報が共有化されるなどの利点もあるが、多くのメールのやり取りが起こるので、学校教育課として、一律に情報を出さないような仕事の整理が必要である。多忙を極める先生方に時間の余裕を持って貰うためには、業務改善を常に行い、現場との関係を密にして、業務を進めていただきたい。

業務の効率化のためには、無駄を省くことが必要であるが、何が無駄か見つけることが大変である。視点を変えることが必要であるが、その一つの方法として異分野の人の意見を聞くことなどは効果的である。

先生方が本務に専念できる時間を増やして、子ども達に対して、適切なタイミングで声を掛けてやる事が出来るようにしたい。早い段階で悩みごとを聞いてやることによって、先生方の時間に余裕が出来る良い循環が生まれることに繋がることになる。

4 社会教育課

川根地区センターの運用について、社会教育課と観光文化課が十分な調整協議をし、市民の目線で事業を執行する必要がある。また、使用料の減免についても、受益者負担の原則から、今後検討する必要がある。

高齢者に対する事業では、もっと高齢者の経験を活かしていくような事業の実施が望まれる。生まれてから高齢者までが生涯学習である。アイデアは一杯あると思うので、お金を掛けなくても明日からできることをやっていただきたい。

5 図書館

本年度は、新図書館の建設計画を検討する中で、六合公民館・初倉公民館・金谷南支所での本の取扱いを開始、Webでの予約も増加している。また、ブックスタート事業やキッズブック事業、幼稚園での読み聞かせ、学校図書への貸し出しなど、サービスの充実に努めている。また、川根図書館では、高齢者への読み聞かせなども実施している。

大人の読書カードの申込みは増えているが、子どもたちの読書離れが進んでいる。教育委員会でもノーテレビデーを推奨しているが、一般的に活字離れが進んでいる。図書館職員が他の図書館を見る研修も行っているようなので、アイデアを出して取り組んでいただきたい。

6 博物館

毎年、博物館の来館者が減少している。今後も大きな予算で企画展を行なうことは困難な状況となっている。博物館としては、近県や県内の博物館との連携を進めているので、島田独自のものを利用して、全国や世界との連携を検討していただきたい。

たとえば、志戸呂焼は、ボストン美術館にもある。版画だけでも韓国や中国ともつながる。すぐに実施できなくても、ネタとして準備し、島田から世界へという視点で考えていっていただきたい。アイデアが勝負である。

また、諏訪原城跡とタイアップした博物館の展示も検討していく必要がある。

7 スポーツ課

金谷地区に設立した総合型地域スポーツクラブ「プラスワン」のようなクラブの設立を、他の地域にも広げていただきたい。そのためには、核となる施設や人材が必要であるが、特に、アイデアやサービス精神をもった人材を育てていく必要がある。

また、そうした取組みに若者を巻き込むことも必要であり、その取組みが健全育成にもつながる。さらに、団塊の世代についても巻き込んで取組みを広げるように心掛けていただきたい。

中学・高校・大学になると地域から離れてしまうが、地域総合型のスポーツクラブの活動を推進することにより、少年からずっと地域に関わりを持って、地元にお手伝いできるような体制を構築していただきたい。

スポーツ教室を有料化したように、利用者に負担を求めていくのは当然の考え方であり、市民を巻き込んで参加する人の受益者負担を求めるべきである。

8 観光文化課

「川根文化センター」は、平成 22 年度から指定管理者を導入することとなるが社会教育課が所管する「川根地区センター」と利用者が競合することから運営面において、共存するための十分な協議が必要である。

また、老朽化している市民会館については、改修するための費用も 20 数億の経費が掛かることから必要性等を含め市民の意見を十分に聞いたうえで、施設のあり方を考えていく必要がある。